

カーフィルムステレオ トランシミッター

取扱説明書・保証書

お買い上げいただきありがとうございます。

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DCC-FMT50UD

© 2007 Sony Corporation Printed in China

保証書

持込修理	
品名	カーフィルムステレオトランシミッター
型名	DCC-FMT50UD
お買い上げ日	平成・西暦 年 月 日
本書記載内容(下記記載)で無料修理を行うことをお約束するものであります。お買い上げの日から下記期間中に故障が発生した場合は、お客様欄にご記入の上、修理をお申付けください。	
販売店	

お問い合わせ先：修理相談窓口
フリーダイヤル：0120-222-330 (FAX 0120-333-389)
携帯電話・PHS一部のIP電話からは、0466-31-2531
ホームページ：<http://www.sony.jp/support/>
ソニーマーケティング株式会社 東京都港区港南1-7-1 ☎108-0075

保証期間	お買上げの日から 1年
お客様住所 お名前	電話 - 様

無料修理規定

1. 正常な使用状態で保証期間内に製品(ハードウェア)が故障した場合には、本書に従い無料修理をさせていただきます。本書記載の修理対応の種別(出張修理、持込修理、引取修理)をご確認の上、以下の要領でご依頼および本書再発行せしめんので、大切に保管してください。の提示・提出をお願いいたします。なお、受付窓口の種類は、(1)お買上げの販売店、(2)お近くのソニーサービスステーション、(3)本書に記載の修理相談窓口の3種類です。

種別 受付窓口 保証書の提示・提出 注意事項
出張修理 (1)(2)(3) 出張修理担当者が訪問した際に提示 ※1
持込修理 (1)(2) 持参した製品の修理依頼の際に提示 ※2
引取修理 (3) 製品の引取時に指定業者へ提出
※1 離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理となる場合、出張費用(実費)を申し受けます。
※2 (1)(2)へのご依頼が難しい場合は、(3)にご相談ください。

2. お客様の要望により、出張修理の種別について引取修理を、持込修理の種別について出張修理・引取修理を、引取修理の種別について出張修理を行う場合は、別途所定の料金を申し受けます。

3. 保証期間内の故障でも次の場合には有料となります。

(1)本書の記載がない場合 (2)本書のお買上げの年月日、お客様名、販売店名を書き換えた場合 (3)お買上げの年月日、販売店が確認できない場合

(4)保証期間中に発生した故障について、保証期間終了後に修理依頼された場合 (5)使用上の誤り(取扱説明書、本体貼付シール等の注意書きに従った正常な使用をしたかった場合を含む)による故障(損傷) (6)他の機器から受けた障害または不当な修理・改造による故障(損傷) (7)お買上げ後の移設、輸送、落下などによる故障(損傷) (8)火災、地震、風水害、落雷その他の天災地変、公害、塗装、異常電圧などによる故障(損傷) (9)業務用など一般家庭用以外での使用による故障(損傷) (10)消耗・摩耗した部品の交換、汚損した部分の交換

4. 故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

5. 修理に際して再生部品・代替部品を使用する場合があります。また、修理により交換した部品は弊社が任意に回収のうえ適切に処理・処分させていただきます。

6. 本書に基づく無料修理(製品交換を含む)後の製品については、最初のご購入時の保証期間が適用されます。

7. 故障によりお買上げの製品を使用できなかったことによる損害については補償いたしません。

8. 記録媒体を搭載または使用する製品の場合、故障の際または修理・交換により記録内容が消失する場合がありますが、記録内容についての補償はいたしません。

9. 本書は日本国内のみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)

修理メモ

* 本書はお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

* 保証期間後の修理については、取扱説明書等をご覧ください。 TO2-1

△警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この取扱説明書の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

1年に一度は、本体が傷んでいないか、本機とシガレットライターソケットの間にほこりがたまっていないか、配線したケーブル類がからまっているいか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、本体やケーブル類が破損しているのに気づいたら、すぐにお買上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

- ① 安全な場所に車を止める
- ② シガレットライターソケットから本機を取り外す
- ③ お買上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する



警告表示の意味

取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

△警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

△注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



火災

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

△警告 火災・感電により大けがの原因となります。

道路交通法に従って安全運転する

運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をおこるなど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となります。

・運転中は絶対に本機や接続機器を接続・設置したり操作したりしない。

・運転中に本機および接続機器の画面を注視しない。

・車外の音が聞こえる程度の音量で聞く。

本体を座布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

通電中の本機や製品に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

運転操作や車体の可動部、エアバッグシステムの動作を妨げる場所には設置しない

事故や感電、火災、けがの原因となります。

・ネジやシートレールなどの可動部にケーブル類をはさみ込まない。

・ケーブル類はまとめる。

・ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。

雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

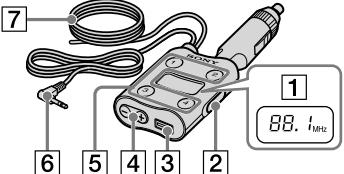
上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

△警告 雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

△注意 雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

<h4

各部の名称



- ① 周波数表示窓
② 充電機器選択スイッチ
③ USB 端子
④ 周波数 +/- ボタン
⑤ メモリー ボタン
⑥ ステレオミニ プラグ
⑦ アンテナケーブル

使いかた

本機を設置するときは、必ずエンジンがかかる状態で行ってください。エンジンを切ったままで使用すると、車のバッテリーを消耗させてしまう場合があります。
運転中や信号で停車しているときなどには、接続や、本機やカーラジオ、ポータブルオーディオ機器などの操作は行わないでください。安全な場所に駐車してから行ってください。

ご注意

- 本機を設置するときは、アクセルやシフトレバーを誤操作しないよう周囲の安全に配慮してから行ってください。
- 運転中の操作は危険なので、接続や操作は、必ず運転する前に、停車状態で行ってください。
- カーラジオやカーラジオアンテナ、接続した機器について詳しきは、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

カーラジオを設定する

- 1 カーラジオを FM 放送が受信できるような状態にする。
2 76 MHz ~ 90 MHz の中から放送を受信していない周波数を選ぶ。

別の地域に移動した場合、選んだ FM 周波数で放送を受信してしまうことがあります。このような場合は、放送を受信していない FM 周波数を再度お選びください。

ご注意
カーラジオの音量は、なるべく小さい音量に設定しておいてください。

本機を設定する

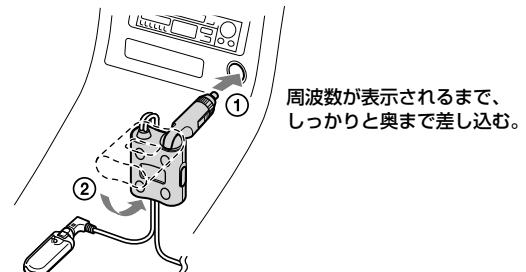
- 1 ステレオミニ プラグをポータブルオーディオ機器のヘッドホン (Q) 端子に差し込む。



ヘッドホン端子が LINE OUT (ライン出力) 端子を兼用している機器に接続した場合は、接続機器の出力をヘッドホン出力に設定してください。LINE OUT 端子に接続した場合、本機への音声入力が大きすぎるため音がひびきます。

- 2 車のシガレットライターソケットに本機を差し込む。(①)

表示窓のバックライトが点灯し、周波数表示が出ます。



- 3 周波数 +/- ボタンを繰り返し押して、カーラジオで設定した周波数を選ぶ。

ボタンを押すたびに、周波数が 76 MHz ~ 90 MHz の間で 0.1 MHz ずつ変わります。

ヒント

- 周波数表示がよく見えるように本体の角度を調節できます。(手順 2 のイラスト ②)
- 周波数 +/- ボタンを押したままにすると、周波数が早く変わります。
- 電源を入れたときは、前回使用したときの周波数が自動的に選択されます。

4 接続したポータブルオーディオ機器を再生する。

ご注意

- 接続したポータブルオーディオ機器のバスブーストやコライザの調節の機能は解除(動作しないように)しておいてください。音がひびむ場合があります。
- 接続したポータブルオーディオ機器のボリュームを音がひびまない範囲で大きくしてください。それでも音量が小さい場合は、カーラジオのボリュームで調整してください。

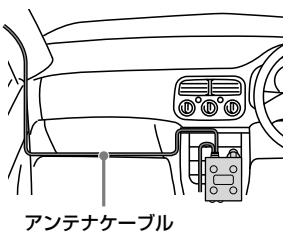
5 カーラジオでの受信状態が良くなるように、本機のアンテナケーブルを車内に設置する。

ご使用になる車種によって、車内のアンテナケーブルの設置方法(取り付けかた)は異なります。以下のイラスト例を参考に、受信状態が最良となるよう試してから、設置してください。

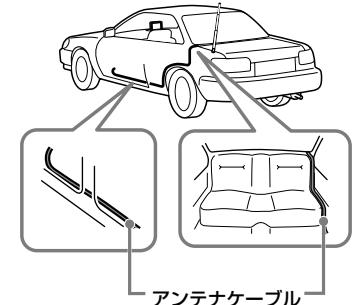
ご注意

- 受信状態が悪い場合は、アンテナケーブルが車のアンテナ近くになるよう設置すると受信が良くなることがあります。
- 車のアンテナ位置は車の取扱説明書をご覧ください。

車のアンテナが車両の前にある場合の一例



車のアンテナが車両の後方にある場合の一例



2 つのイラストは一例であり、ご使用になる車の状況により送受信状態が変わります。最良の受信状態になるようアンテナケーブルを設置してください。

本機からの受信状態が悪くなったりとき

最初に設定した周波数では受信状態が良好であったにもかかわらず、走行中に受信状態が悪くなったりときは、次のように考えられます。状況に応じた対処を行ってください。

設定を終えた後、走行し始めたら受信状態が悪くなったり

- 地下駐車場やビルの影など、カーフMラジオでFM放送を受信しにくい場所があります。そのような場所でカーフMラジオと本機の設定をしたため、走行中にFM放送の受信状態がよくなり、設定した周波数がFM放送の影響を受けて、本機からの受信状態が悪くなったりと考えられます。
- このような場合は、FM放送の受信状態がよい場所で、再度、FM放送を受信していない周波数を選び、カーフMラジオと本機を設定してください。

車で移動するに従って受信感度が悪くなったり

- FM放送は地域によって受信する周波数が異なります。移動した地域で、本機に設定した周波数でFM放送を受信できる場合は、その放送の影響を受けて、本機からの受信状態が悪くなることがあります。
- このような場合は、移動した地域で、再度、FM放送を受信していない周波数を選び、カーフMラジオと本機を設定してください。

ときどき音が途切れたり、ノイズが入ったりして聞きづらくなったり

- 都心部や市街地では、FM放送局やミニFM放送局、アマチュア無線などの影響を受けて、本機からの受信状態が悪くなり、音が途切れたりノイズが入ったりする場合があります。
- こののような場合は、再度、影響の少ないFM周波数を選び、カーフMラジオと本機を設定してください。

選んだ周波数を記憶させるには

工場出荷時は、メモリー ボタンの周波数は 76 MHz に設定されています。

「本機を設定する」の手順 3 で周波数を選んでから、周波数表示窓にメモリー ボタン番号が表示されるまで記憶させたいメモリー ボタンを押したままにします。

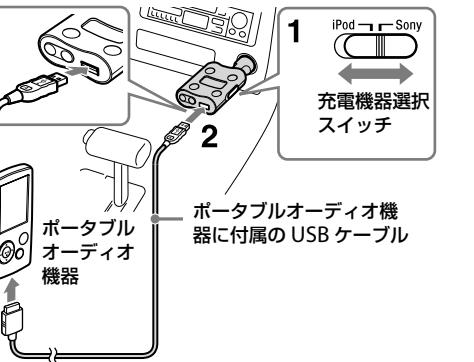
周波数を記憶させておけば、メモリー ボタンを押すだけで周波数を調べます。

ご注意

選んだメモリー ボタンにすでに別の周波数が記憶されていたときは、新たに選んだ周波数が記憶されます。

充電する

USB 充電に対応した、ウォークマンまたは iPod を充電できます。機種によっては充電機能に対応しないものもあります。詳しくは「充電機能に対応する機種一覧」の項目や最新のカタログ、またはホームページをご確認ください。



1 充電するポータブルオーディオ機器に合わせて、本機の充電機器選択スイッチを切り換える。

ウォークマンを充電するときは「Sony」に、iPod を充電するときは「iPod」にスイッチを切り替えます。

ご注意

充電機器選択スイッチの切り替えは確実に行ってください。スイッチの設定間違いは、本機およびポータブルオーディオ機器が故障する原因となります。

2 ポータブルオーディオ機器に付属の専用 USB ケーブルを使い、本機とポータブルオーディオ機器を接続する。

機種によっては USB ケーブルが不要な場合もあります。

接続した機器は、安全な場所に置いてください。

3 ポータブルオーディオ機器側で充電に必要な操作を行う。

機種によっては、充電をするための操作が必要ない場合もあります。詳しくは、ポータブルオーディオ機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

4 充電が終了したら、ポータブルオーディオ機器を本機からはずす。

ご注意

- シガレットライターソケットへの接続はしっかりと確実に行ってください。

シガレットライターソケットの位置・形状によっては本機が使用できない場合があります。

車が急ブレーキをかけた際に、本機に接続したポータブルオーディオ機器が動かないようしっかりと固定してください。

ケーブル類は以下の点に注意して正しく設置してください。

- 運転操作や可動部の妨げになる取り付けをしない。

- 幼児の手の届かないよう設置する。

エアバッグシステムの動作を妨げる取り付けをしないでください。

本機につないだ USB ケーブルを強く引っ張らないでください。故障、断線の原因となることがあります。

火災、感電を避けるため、本機を液体や湿気のある場所で使わないでください。

USB ハブや USB 延長ケーブルをご使用の場合の動作保証はいたしかねます。必ず、ポータブルオーディオ機器(ネットワークウォークマンまたは iPod)に付属の専用 USB ケーブルなど、ポータブルオーディオ機器側の指定する接続方法に従ってください。

充電中には再生できない機器もあります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

充電機能に対応する機種一覧 (2007 年 8 月現在)

充電機器選択スイッチの設定状態によって、対応する機種が異なります。

Sony : NW-A3000 シリーズ、NW-A1000 シリーズ、

NW-A800 シリーズ、NW-A600 シリーズ、

NW-E500 シリーズ、NW-E400 シリーズ、

NW-E300 シリーズ、NW-E010 シリーズ、

NW-E000 シリーズ、NW-S700 シリーズ、

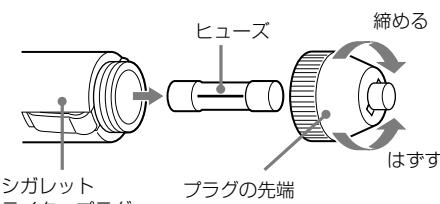
NW-S600 シリーズ、NW-S200 シリーズ

iPod : 第 4 世代以降の iPod、iPod mini、iPod nano、

第 2 世代以降の iPod shuffle

ヒューズの交換

本機が正常に動作しない場合は、シガレットライターソケット内部のヒューズが切れていないかを確認してください。



1 シガレットライターソケットから本機を抜く。

2 プラグの先端部分を回してはずす。

3 ヒューズを取り出す。

4 ヒューズが切れていないか確認する。

切れている場合は、手順 5 へ

切れない場合は、手順 6 へ

5 新しいヒューズを用意する。

市販の同じ定格のヒューズ
(1 A 125 V、長さ約 20 mm) をお求めください。

6 ヒューズを差し込む。

7 プラグの先端を元通りにしっかりと締める。

ご注意

- 定格の異なるヒューズをご使用になると故障や火災の原因になります。
- ヒューズを針金などで代用しないでください。
- ヒューズを交換したあとも、再び切れるような場合には、お買い上げ店にご相談ください。

故障かな?と思ったら

症状	原因 / 处置
音が小さい	• 本機がシガレットライターソケットから聞こえない → 正しく接続する。
音がひびむ	• 本機の送信周波数とカーフMラジオの周波数が一致していない → 本機の送信周波数とカーフMラジオの周波数を一致させ、送受信可能な状態にする。
音がに入る	• 本機への音声入力信号が大きすぎる → ポータブルオーディオ機器の LINE OUT (ライン出力) 端子に接続している場合は、ヘッドホン端子に接続する。
雑音が入る	• 接続したポータブルオーディオ機器のバスブースト機能を使用している → ポータブルオーディオ機器のバスブースト機能を解除する。
音が途切れる	• 本機で選んだ送信周波数とカーフMラジオの周波数が一致していない → 本機の送信周波数とカーフMラジオの周波数を一致させ、送受信可能な状態にする。
周波数表示窓のバックライトが点灯しない	• 本機がシガレットライターソケットへ正しく接続されていない → 正しく接続する。
充電できない	• 充電機器選択スイッチが正しく設定されていない → 正しく設定する。
充電機能に対応する機種一覧	• ポータブルオーディオ機器が USB 充電に対応していない → 「充電機能に対応する機種一覧」の項目や最新のカタログ、またはホームページをご確認ください。